



菱山さん・3野党の皆さん一緒にとアピール

政治を変えよう 市民連合集会

43人の呼びかけ人と信州市民連合、中信市民連合などで作る実行委員会が6月2日、「Change Now by Our Voice（今を変えよう 私たちの声で）ーくらし、平和、政治 6・2市民アクション in 信州」を松本駅前約700人の市民を集めて集会と市街地のパレードを行いました。当日は、雷雨も予報されていましたが、幸いに集会中は太陽も顔をのぞかせ、パレードの際にも小雨にとどまり、予定通り実施することができました。

集会では、呼びかけ人の又坂常人さん（信州大学名誉教授）が主催者として「岸田政権は末期症状だ。政権交代を実現してよましな政治をつくろう」などとあいさつしました。そのあと、立憲民主党から杉尾秀哉さん（県連代表／参議院議員）、日本共産党から武田良介さん（前参議院議員）、社会民主党から大椿裕子さん（党副党首／参議院議員）の3人から裏金問題が発覚し、大軍拡・防衛増税をすすめ、国民が苦しむ物価高による生活苦しみを放置している自民党政権を変えようという訴えがありました。地元（長野2区）の衆議院議員、下条みつさん（立憲民主党）も駆けつけてあいさつしました。

特別ゲストの市民運動家の菱山南帆子さんは、「まさに今、市民の声をあげて政治を change していこう」とアピールしました。集会では「今こそきちんと怒らなければなりません。仲間を増やし、史上最悪の岸田政権を退陣、政権交代を実現させましょう」というアピール文を採択しました。

集会後には、松本市街地をパレードし「政治を change しよう」と市民にアピールしました。参加、動員のご協力、ありがとうございました。

原発ゼロ連絡会 学習会と総会 開催

6月16日、原発ゼロ長野県連絡会の臨時総会と学習会が、高校会館で開かれ、オンラインを含め32人が参加しました。「原発ゼロ長野県連絡会」は2011年の3・11東日本大震災と福島原発事故をうけ、原発ゼロと自然エネルギーへの転換をもとめて2011年12月に結成され、今年で13年になります。この間、学習会や3・11の脱原発長野行動（原水禁などと共催）などに取り組んできましたが、2021年以降コロナ禍で総会が開催できませんでした。

今回の臨時総会では、この間の決算報告を行い、当面の予算を決めました。事務局は引き続き県労連が担当しますが、事務局長は岩谷 県労連事務局次長に交代。今後、定期総会は12月に開くことも決めました。この13年で当初の「呼びかけ人」の中には亡くなられたり、活動できないかたもいるため、定期総会までに改めて賛同する個人と団体を募っていくことを確認しました。

学習会では、発足当時から呼びかけ人でもある大日方聡夫さん（平和委員会会員）、が「未来のため学び、伝え、変えていこう」と題して講演を行いました。大日方さんは、国連IPCCの報告書を紹介しながら、このままでは温室効果ガスの大幅な削減がない限り、地球温暖化は後戻り不可能な暴走をして「今世紀が人類の生きる最後の世紀になる」可能性があるという警告をしました。また、原子力エネルギーは人類にとって制御不可能であり、使用可能なエネルギーは「自然エネルギー」だとして、鬼無里村で地域ぐるみで取り組んでいる「自然との共生」を目指す「まめっぺい鬼無里」の取り組みを紹介しました。



大日方世話人の講義を熱心に聞く参加者

長野県労連からは学習企画に男性の参加も 全労連女性部単産・地方組織交流集会 開催

5月19日（日）全労連女性部単産・地方組織交流集会が行われました。

約2時間、全労連女性部の「ハラスメントなくそうキャンペーン」の一環として職場でハラスメントをなくす取り組みについて学習企画を実施しました。

一般社団法人ちゃぶ台返し女子アクションの中村果南子さんから講義をお聞きし、ワークも行ないました。会場20人、オンライン67人の参加がありました。ジェンダー平等委員会からのよびかけを行い、県労連からは男性も含め、5人が参加しました。

<参加者の建交労磯野さんからの感想>

午前のみ「ハラスメントをなくす 第三者介入のスキルを身につけよう」に参加。

目に写ったテーマの同意とバウンダリーの内容は、性暴力や性的同意の狭い範囲で考えて参加を少し躊躇する気持ちもありました。参加できなかった人も同じ気持ちの人もいましたが、思い切って参加。

講師のお話を聞くうちに、もっと大きくハラスメントとして考える事でいいと受け止め、ハラスメントに対して5つの介入方法を理解して介入を実行する事を学びました。まずは気付く事、問題としてとらえる事、このことを責任持って引き受ける事、介入の方法を理解する事、介入を実行する事。以上を学んだことで整理されました。

4つのパターンのシナリオにグループ分けされて4回のグループワーク。時間に制限もあり初めての経験でしたが、思い思いの発言から介入の役割分担もできて、発表にあたらたら頑張ろうと励ましあいました。発表にはなりませんでしたが、いくつかの発表は、学んだ介入の方法で、直接介入、気を逸らす、委任する、記録する、事後介入する等、短時間でも実践しながらの発表でとてもよく理解できスッキリしました。

思い切った参加でしたが、打ち合わせなしの同じ単産の県内、全国の参加者もいて、また次への学習に活かしたいと思いました。

身の回りのハラスメントに気づき、介入できるよう心がけたいです。

午後は行動提起や特別報告で、全国の女性組織が奮闘している様子が伝わりました。山口県労連では女性部総会再開に向けた報告をお聞きし、毎年総会や学習会を企画・運営できることは、決して当たり前ではないのだと感じ、長野県労連女性部が受け継いできた歴史の重さを痛感しました。

県労連ではジェンダー平等委員会を立ち上げ、宣言の検討、学習会の企画や周知、調査の実施に取り組んでいます。ジェンダー平等もハラスメントも女性だけの課題ではありません。昨年の「はたらく女性の中央集会in長野」で培った土壌を活かし、今後も女性部の活動をより広げ、ジェンダー平等の取り組みをすすめていきましょう！

※県労連では、ジェンダー平等委員会で学習のよびかけを行っています。

7月11日（木）18時15分から長野県高校教育会館・中会議室にて、長野県労連主催で中村果南子さんを講師に、ハラスメント学習会が行われます。積極的なご参加お待ちしております。

第25回 働くもののいのちと健康を守る 長野センター総会・学習会 開催



白神弁護士

2024年6月1日（土）に第25回働くもののいのちと健康を守る長野センター総会・学習会が松本勤労者福祉センターにて開催されました。ZOOMも併用し、会場38人+WEB6人の計44名の参加で行いました。始めに、「過労死をはじめとした労災・労働事件から見えるもの」と題して、八王子合同法律事務所の白神優理子弁護士から講演をして頂きました。クイズを交えて労働基準法について学び、過労死の事例から現状と問題点をお話頂きました。「労基法は、憲法13条と25条が根拠となっている。日本は学校教育で労働者のための教育がなく、勝ち取った権利を知らされていないことが根本的な問題」などとお話頂きました。労災・過労死の防止策として労働組合に入ることは、みんなで命と健康を守りあうこと、調査・研究と法整備、学校教育の充実、国民的な議論と世論を大きく広げることと教えて頂きました。

その後、いの健長野センターの総会を行いました。総会では、すべての議案が承認されました。引き続き吉田午郎過労自死損害賠償請求訴訟の取り組みと働くもののいのちと健康が守られるように「安全第一」の認識を広げていく決意を固めました。



会場の様子

2024年度役員	
理事長	鈴木直美
副理事長	出河進
	黒澤さと子
事務局長	八重田景子
事務局次長	大矢美奈子
理事	吉田恵美子
	遠山計
	濱田貢也
	赤羽豊喜
	堀内進
監事	滝澤睦広
	佐野雅生江 高野悠介

学習会後に白神弁護士と参加者



第32回非正規で働くなかまの全国交流集会in佐賀

全労連非正規センターと佐賀現地実行員会は6月1日、2日でアバンセ、メートプラザとオンラインで「非正規で働くなかまの全国交流集会in佐賀」が開催され、会場・オンラインで400名以上が参加しました。オープニング企画を務めたゴスペルチームは、様々な職場から集まった有志が4回の練習を重ね、当日は黒の衣装でそろえ、熱唱で盛り上がりました。

佐賀県内260名から集約した非正規労働者実態アンケートの結果が発表され、不安定雇用や低賃金など改めて問題が浮き彫りになるとともに、その改善にむけ労働組合が必要であること、また、この活動を通じて1名が組合に加入したことも報告されました。

その他、非正規センター柳代表の挨拶、仲野事務局長の基調報告、落語家の古今亭菊千代さんによる記念講演「落語で知る働き方 働かせ方」がおこなわれるとともに、社会保障をテーマにしたトークセッション「非正規労働者の社会保障を考える」での交流もおこなわれました。